

を敷べし、左皮ばかりをとりて、右皮をはきても居なり、
一行騰をくらにうちかけて出ることあり、又犬笠懸射はて、歸る時、鞍にかけて歸る事もあるべし、其時むかばきをくらくるには、右皮を先鞍にかけて、さて左皮を上にかけて、白毛くらの左へなるべし、手繩にてむかばきをからむべし、

〔貞丈雜記五裝束〕一行騰にやたらびやうしとて、鞍のあたる所へ別の革を付る物也といふ人あり、

やたらびやうしといふ事、舊記に見えず、それに似たる事もなし、いぶかし、此説用がたし、又行騰をはきて、貴人は兩方の腰にあげまき下ると云説あり、此事も舊記に見えず、用がたし、

一はかま行騰と云は、神事行騰の事也、神事の時、犬追物笠懸、やぶさめなど射る、時にはく行騰は、むかばきのすそ白毛のかどを、すぢかひに切てはくを云也、笠懸聞書、射手具足秘傳の書に見えたり、○中略

一熊の皮の行騰は、彈正の官の人ならでは不用之、虎豹の皮は公方様、又は三職の衆ならでは用給はぬ也、射手具足秘傳に委し

〔令義解六衣服〕武官禮服

衛府督佐、兵衛佐不在此限、○中略 錦行騰、

〔新儀式四時〕野行幸

鶴飼四人、中略位色接腰伊鷹飼四人、中略水豹皮腹纏、熊皮行騰、左右近衛陣列、中略少將已下府生已四位五位位色接腰、六位布帶、舍人青摺衫、騎御馬者、腹纏行騰、

〔延喜式四十五近衛〕凡騎射人於本府馬場教習、○中略 五日質明各就馬寮騎馬陣列、共進馬場、官人二人

著皂綫、○中略 行騰麻鞋、近衛卅人皂綫、○中略 行騰麻鞋、○中略

凡供奉行幸、大將以下少將以上、○註 並著皂綫、横刀弓箭行騰草鞋、幸近、除、行騰、著、靴 將監以下府生以上並